

(別添資料1)

事業所名

特定非営利活動法人アイゴ21 ココトこども教室

支援プログラム(5領域)

作成日

令和

6年

4月

1日

法人(事業所)理念		・児童の安心,安全を確保し、楽しめる活動を通して自己肯定感を育成し、主体的な学びの場を提供する。 ・児童や保護者が安心して生活を送ることが出来るよう、職員・関係機関が連携し、支援を行う。						
支援方針		・児童に対して、感覚統合、教科学習の指導、ソーシャルスキルトレーニング等の支援を実施することにより、児童の持てる社会適応や認知能力の更なる向上を図る。 ・各職員が専門性を発揮し、多職種間での連携を図ることにより、児童や保護者の生活上の困難や課題の軽減に努める。						
営業時間		平日 10 時 土日 9 時	から	19 時 18 時	まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	・児童の特性に合った健康的な生活リズムが養われるよう、生活状況の把握および利用スケジュールの調整を行う。特に不登校児童、要支援・要保護児童の傾向が見受けられた場合は、学校やこども家庭支援センター、児童相談所と連携をしながら、生活状況・家族関係の把握に努める。状況把握をした上で、利用スケジュールの調整、安心して過ごせるような環境調整等を行う。						
	運動・感覚	・感覚の調整や視空間認知処理のトレーニングを行い、目と動作の繋がりがりや視覚的集中の持続等の向上を目指す。ビジョントレーニング(手先の運動・バランス運動・ボール遊び等)を実施し、左右や力加減の意識、目で物を追うこと、物に焦点を当てることなどを練習していく。また、必要に応じて運筆練習も実施し、LD傾向への支援を行う。						
	認知・行動	・学校における学習の補填、基礎的なリテラシー力の補填等を目指す。また、ルール理解・衝動コントロールの向上も目指す。 ・学習に関しては、宿題のサポートや苦手な箇所の把握およびフォローを行っていく。LD傾向の把握にも努め、視機能の弱さを考慮した教材を活用し、音韻に注意を向ける練習等を実施する。 ・ルール理解・衝動コントロールに関しては、保護者とも連携をしながら、クールダウン(深呼吸・数を数える・その場から離れる等)の練習を行う。その際、身体拘束等の適正化を意識し(「切迫性」「非代替性」「一時性」の3要件)、慎重に判断および実施する。やむを得ず身体拘束等が伴うクールダウンを実施した場合は、態様・時間・理由・実施内容等を記録し、保護者にも報告をする。						
	言語 コミュニケーション	・対人関係の基礎となる、言語・コミュニケーション能力の向上を目指す。「セカンドステップ」というソーシャルスキルトレーニングプログラムを導入し、写真や映像を見ながら表情の理解、自分の気持ちに気づく練習、気づいた気持ちを話す練習等を行う。次の段階として他者の気持ち、場面の理解等に進んでいく。グループでの実施を基本とし、他者の話を聞く練習も行う。グループでの実施が難しい場合には、個別でのセッションを実施する。						
	人間関係 社会性	・円滑な対人関係を築けるよう、社会的スキルの習得を目指す。「言語・コミュニケーション」同様、「セカンドステップ」というソーシャルスキルトレーニングプログラムを導入し、写真や映像を見ながらディスカッション・ロールプレイ等を実施する。「言語・コミュニケーション」のスキルが基礎となり、対人関係場面での状況理解が可能となるため、引き続き自分の気持ち、他者の気持ちを話す練習を実施しつつ、他者の立場になって考えること、他者を思いやる言動を心掛けること、他者に自分の気持ちを適切に伝えることを練習する。						
家族支援		・児童の特性について保護者が理解を深め、保護者同士で情報交換等を行える機会の提供を行う。また、保護者及び児童の日常的な支援等に当たる者に対して、その求めに応じて児童の支援に関する相談及び助言を行う。						
地域社会への参加 (インクルージョン)		・児童の所属する保育所等がある場合は、支援状況の共有等連携を強化しながら、保育所等での適応を目指す。また、事業所のみを活用している場合、地域社会との繋がりを持つことや幅広い体験を促していくことを目的に、支援状況や特性を考慮した上で、児童に適した併行通所先(保育所等)を保護者とともに検討していく。						
職員の質の向上		・法人は事業所において適切な指定児童発達支援及び指定放課後等デイサービスの提供ができるよう従業者の業務体制を整備するとともに、従業者の資質向上を図るために次のとおり研修の機会を設けるものとする。 1 採用時研修 採用時3ヶ月以内 2 継続研修 年2回以上						